水の貯金箱
WATER EQUALITY
概要
今の日本では蛇口をひねると、当たり前のように水が出てくる。そのため、水を「大切に使う」という意識が薄れ、水を無駄にする人が多いのではないだろうか。しかし、そんな日本でも60年ほど前までは工場排水による水質汚染などによってきれいな水を容易に使用することは難しかった。世界には今でもそのような状態にある国や地域が沢山ある。日本は過去の経験を生かして、まずは地域からの取り組みを始め、水の無駄を減らしていき、そのような場所へ支援していかなければならないと考えた。
「プロジェクトのサイクル」
世帯単位で水を制限
家族の人数に合わせて、1ヵ月間、決められた水の量に水の使用をおさえる。
例えば、コップ1杯の水で、はみがきをする様子など、節水している様子を動画として撮ってSNS上にアップする。これを参加とみなすことで若者もイベントに取り込むことができる。
SNSでの参加
ある世帯が水を節水している様子を地元のテレビ局が取材して、テレビなどに放送する。
ニュース・CMなどで放送
さらには…
①「水」として提供
⇒上のサイクルにより、余った水のうち一定の割合で水資源を国内の離島等生活用水の確保が難しい地域に輸送・提供し、活用してもらう。その様子をビデオとして届けることで、イベントの参加を促進する。
②「資金変換」して提供
⇒余らせた水にかかる水道料金のうち一定の割合を井戸や水道を通すための資金として世界の未整備地域に提供する。そして、そのような設備を人々が利用する様子をビデオに残し、広めることで「世界の水利用」に関して知り、意識を高め、「水の格差」の解消を目指す。
このイベントによって達成したいと考えている究極的な目標は「水の平等」であり、これは全ての人々が自立して水を利用することができる社会を意味する。ある一家族が実際に一ヶ月間の節水というハードな体験をし、その後、地域での呼びかけやテレビでのCMやニュースなどに加え、SNSででも手軽にできる節水を提起することでイベントのハードルは下がる。これにより、アイスバケツチャレンジのような誰もが一度やってみたくなるようなイベントに成長し、より多くの人々を巻き込んだプロジェクトとすることで最終的には目標の達成につなげられると考えている。
日本は、快適で衛生的な環境で日々を過ごすことができている。
それは、ほとんどの人々が水を不自由なく使用することができるからだ。それに対し、世界では安全な水にアクセスできない人が約7億5000万人いると言われている。一方で、手軽に水が手に入る地域では、その手軽さゆえに、かなりの量の水が無駄になってしまっている。
そこで、私達は、「水の貯金箱」というイベントを考えた。ここでの「貯金」とは、水が豊富にあり、安全に、そして簡単に、手に入る地域で、より多くの人々が自身の水利用を見直し、使われなかった水を、水不足の地域のために活用することである。そして、この活動が広がり、十分な水が確保されたら、例えば、日本の離島など水不足の地域に安全な水を提供したり、世界の水不足の地域へ水道設備の資金を提供したりすることも可能になる。
M.Q.P.I.02
マクピョーズ
SNS
<イベント参加によるメリット>
①家族の絆が深まる
⇒水を制限するというのは、簡単なことではないはずだ。いつも使用している水の量よりも少なくするには、生活していく中で、小さなことにも気をかけなければならない。そのためには、一緒に暮らす人との協力が欠かせない。イベントに参加することで、家族や夫婦など身近な人々との絆がより一層深まるだろう。
②節電につながる
⇒節水することで、他にも多くの好影響がある。その代表的な例として、水を浄化するための電気を節約することができる。そうすると、まず、費用が削減され、浮いた分の費用を浄水場などの施設の維持費にもまわせる。次に、発電量も削減されるため、排出される二酸化炭素の削減にもつながる。そうすれば、地球温暖化進行の防止にもつながるだろう。地域から行動を起こし、少しずつイベントの参加者の幅を広げていくことで地球規模の大きな課題の解決に貢献できることもこのイベントの魅力であるといえる。